ー牧師室からー

青年会員と元青年会員、総勢9名で沖縄研修旅行に行って来た。沖縄の教会の方々が本当に親切に案内してくださり、観光旅行とは全く違う沖縄体験ができた。連日快晴で沖縄の夏を存分に味わった。後日、皆さんから旅行内容の報告があるかと思いますので、私は余分にいただいた2日間のひとり旅の報告を書きたい。

空港で皆さんを見送った後、神学校の同級生2人が奥さん同伴で夕食に招待してくれた。26年ぶりの再会は懐かしく、夜遅くまで話し込んだ。沖縄の現実の中で着実に伝道しておられる。

翌日、3分の1が米軍基地になっている伊江島に渡り、障害者の画家・木村浩子氏の「土の宿」に泊まった。氏から左足で「人が好き、土が好き、そして私が好き」とサインをしていただいた。何よりの記念になった。伊江島の珊瑚礁の海で、始めてシュノーケルを付けて泳いだ。その美しさに感動した。色とりどりの珊瑚の間で大小の魚が群れて泳いでいる様は天国のように見えた。しかし、海底に蛇を見た時はひたすら逃げた。

木村氏の隣りに、岩波新書から「命こそ宝ー沖縄反戦の心」を出版された阿波根昌鴻氏が住んでおられる。米軍からの農地返還を粘り強く闘う農民で、ご自分で集めた「反戦平和資料館」を建てておられる。興味深く見た。

「土の宿」に沖縄研修ツアー一行が到着した。なんと全国キリスト教主義学校の聖書科の先生たちで、既知の先生が数人おられ、お互い驚いてしまった。その一行のお蔭で夜、阿波根氏のお話が聞けた。90歳とは思えぬ元気な声で平和への願いを力強く語られた。沖縄の地獄のような戦争体験、その後の米軍による傍若無人な農地取り上げ、日本の行政のアメリカ追従、お金に群がる農民の荒廃、そしてこの時代の自己中心主義に対する鋭い批判。単純、率直なお話だったが、具体的に闘い、平和を実現しようと生きてきた人の迫力が伝わった。木村、阿波根両氏から私は「愛」を強く感じた。

週　報

1993年8月22日　聖霊降臨節第13主日

巻14　　21号

1993年度教会主題

「キリストが私たちの内に形づくられる」

聖　句　二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」そして、看守とその家の人たち全部に主の言葉を語った。

使徒言行録　16章31節～32節

目　標　1．生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
2．教会の組織を再検討し、キリストの体を作る。
3．家族こぞって主イエスを賛美する。

日本キリスト教団　横浜港南台教会

〒233　横浜市港南区港南台 7丁目-8-29
電話　045-833-5323、045-833-6616
振替　横浜 9-13994

牧師　秋吉隆雄